

探索. 分子研研究会 「拡がるロドプシンの仲間から”何がわかるか””何をもたらすか”」(2010/03, 岡崎).

- 28) 鈴木南美, 菅原亨, 松井淳, 郷康広, 平井啓久, 今井啓雄 (2010) 受容体の多型解析による味覚変異ニホンザルの発見. . 分子研研究会 「拡がるロドプシンの仲間から”何がわかるか””何をもたらすか”」 (2010/03, 岡崎).

## 講演

- 1) 平井啓久 (2009) 霊長類進化の科学 日本薬学会 遺伝子以外のゲノムがもたらす生物の進化, 霊長類の概説と研究内容の紹介.
- 2) 中村伸 (2009/10) 機能的食品・キクイモ/イヌリン:サルモデルでの作用評価および今後の展望. 機能的食品講演会 阿智村.

## 寄附研究部門

### 比較認知発達 (ベネッセコーポレーション) 研究部門

佐藤弥 (准教授), 伊村知子 (2009年5月より助教), 高島友子 (技術補佐員)

#### <研究概要>

##### A) 表情コミュニケーションについての実験心理学的研究

佐藤弥

表情や視線による対人コミュニケーションにおける情報処理過程を, 反応記録・ビデオ録画・筋電図計測などにより検討した. 定型発達者および発達障害者を対象とした.

##### B) 表情コミュニケーションについての神経科学的研究

佐藤弥

表情や視線による対人コミュニケーション課題を遂行中の神経活動を, fMRI・深部脳波などを用いて計測した.

##### C) チンパンジーとヒトの比較認知発達研究

伊村知子

チンパンジーとヒトの空間認知に関する能力, 形態情報と運動情報の統合過程を直接比較する研究をおこなった.

##### D) ニホンザル乳児の知覚発達の比較

伊村知子

ニホンザルの0歳児を対象に, 奥行き知覚, 運動知覚の能力を注視時間を指標として検討し, その発達過程をヒトと比較した.

#### <研究業績>

##### 原著論文

- 1) Imura T, Tomonaga M (2009) Moving shadows contribute to the corridor illusion in a chimpanzee (*Pan troglodytes*). *Journal of Comparative Psychology* 123(3):280-286.
- 2) Sato W, Kochiyama T, Uono S, Yoshikawa S. (2009) Commonalities in the neural mechanisms underlying automatic attentional shifts by gaze, gestures, and symbols. *Neuroimage* 45(3):984-992.

- 3) Sato W, Uono S, Matsuura N, Toichi M (2009) Misrecognition of facial expressions in delinquents. *Child and Adolescent Psychiatry and Mental Health* 3:27.
- 4) Sato W, Yoshikawa S (2009) Anti-expressions: Artificial control stimuli for emotional facial expressions regarding visual properties. *Social Behavior and Personality* 37(4):491-502.
- 5) Tomonaga M, Imura T (2009) Faces capture the visuospatial attention of chimpanzees (*Pan troglodytes*): Evidence from a cueing experiment. *Frontiers in Zoology* 6:14.
- 6) Uono S, Sato W, Michimata C, Yoshikawa S, Toichi M (2009) Facilitation of gaze-triggered attention orienting by a fearful expression and its relationship to anxiety. *Psychologia* 52(3):188-197.
- 7) Uono S, Sato W, Toichi M (2009) Dynamic fearful expressions enhance gaze-triggered attention orienting in high and low anxiety individuals. *Social Behavior and Personality* 37(10):1313-1326.
- 8) Uono S, Sato W, Toichi M (2009) Dynamic fearful gaze does not enhance attention orienting in individuals with Asperger's disorder. *Brain and Cognition* 71(3):229-233.
- 9) Adams RB Jr, Rule NO, Franklin RG Jr, Wang E, Stevenson MT, Yoshikawa S, Nomura M, Sato W, Kveraga K, Ambady N (2010) Cross-cultural reading the mind in the eyes: An fMRI investigation *Journal of Cognitive Neuroscience* 22(1):97-108.
- 10) Sato W, Kochiyama T, Uono S, Yoshikawa S (2010) Amygdala integrates emotional expression and gaze direction in response to dynamic facial expressions. *Neuroimage* 50(4):1658-1665.
- 11) Sato W, Kochiyama T, Yoshikawa S (2010) Amygdala activity in response to forward versus backward dynamic facial expressions. *Brain Research* 1315:92-99.
- 12) Sato W, Yoshikawa S (2010) Detection of emotional facial expressions and anti-expressions. *Visual Cognition* 18(3):369-388.
- 13) Shirai N, Imura T, Hattori Y, Adachi I, Ichihara S, Kanazawa S, Yamaguchi MK, Tomonaga M (2010) Asymmetric perception of radial expansion/contraction in Japanese macaque (*Macaca fuscata*) infants. *Experimental Brain Research* 202(2):319-325.
- 14) Uono S, Sato W, Toichi M (2010) Brief report: Representational momentum for dynamic facial expressions in pervasive developmental disorder. *Journal of Autism and Developmental Disorders* 40(3):371-377.
- 15) Ushitani T, Imura T, Tomonaga M (2010)

Object-based attention in chimpanzees (*Pan troglodytes*). *Vision Research* 50(6):577-584.

#### 総説

- 1) 佐藤弥 (2009) 情動の脳内機構：恐怖. *Brain Medical* 21(4):331-336.

#### 著書 (分担執筆)

- 1) 伊村知子 (2009) ヒトのように「影」を手がかりにして物の形や動きを見ますか? 「新しい霊長類学: 人を深く知るための 100 問 100 答」(京都大学霊長類研究所編) p.185-188 講談社.
- 2) 佐藤弥 (2009) サルは鏡に自分が映っているのかわかりますか? 「新しい霊長類学: 人を深く知るための 100 問 100 答」(京都大学霊長類研究所編) p.164-166 講談社.
- 3) 佐藤弥 (2009) 知能は人の何歳ぐらいですか? 「新しい霊長類学: 人を深く知るための 100 問 100 答」(京都大学霊長類研究所編) p.181-184 講談社.
- 4) 佐藤弥, 魚野翔太, 鈴木直人 (2010) 情動. 「イラストレクチャー認知神経科学: 心理学と脳科学が解くこころの仕組み」(村上郁也編) p.197-214 オーム社.

#### 学会発表

- 1) Uono S, Sato W, Toichi M (2009) Representational momentum for dynamic facial expressions in individuals with pervasive developmental disorders. *International Society for Research on Emotion 2009 Conference (2009/08, Leuven, Belgium)*.
- 2) 伊村知子 (2009) ヒトとニホンザルの乳児から見た 3 次元の世界: 「影」からものの位置を推測する. 日本赤ちゃん学会第 9 回学術集会 (2009/05, 滋賀).
- 3) 伊村知子, 友永雅己 (2009) チンパンジーにおける陰影とテクスチャからの 3 次元形状知覚. 日本基礎心理学会第 28 回大会 (2009/12, 東京).
- 4) 伊村知子, 友永雅己 (2009) ニホンザル乳児における影の運動からの物体の運動軌跡の知覚. 日本霊長類学会第 25 回大会 (2009/07, 岐阜).
- 5) 伊村知子, 友永雅己, Albert Y (2009) チンパンジーにおける両眼視差と線遠近法による奥行き知覚: エイムズの窓を用いて. 日本動物心理学会第 69 回大会 (2009/09, 岐阜).
- 6) 魚野翔太, 佐藤弥, 十一元三 (2010) 広汎性発達障害における恐怖表情の認識障害とその発達過

程. 日本発達心理学会第 21 回大会 (2010/03, 神戸).

## 附属施設

### 人類進化モデル研究センター

平井啓久 (遺伝子情報分野教授・センター長併任 2007 年 10 月より), 松林清明, 景山節, 明里宏文 (教授), 鈴木樹理 (准教授), 宮部貴子, 早川敏之 (助教), 熊崎清則 (技術専門員), 阿部政光, 釜中慶朗, 前田典彦 (技術専門職員), 渡邊朗野, 森本真弓, 兼子明久, 渡邊祥平, 須田直子 (技術職員)

霊長類研究所のプロジェクトとして推進しているリサーチ・リソース・ステーション(RRS)計画について, 人類進化モデル研究センターは施設整備, ニホンザル母群導入, 飼育・健康管理をおこなうとともに, これらのサルについての種々の研究を推進している. 2009 年度には官林キャンパスにグループケージ 1 棟, 小野洞キャンパスにグループケージ 1 棟を建設の他に, 放飼場のセキュリティシステムなどの導入を行った. RRS 計画は霊長類本来の特性を維持したニホンザルを, 自然の生息環境に近い条件下で動物福祉に配慮して飼育し, 新たな霊長類研究の推進をおこなうものである. このため第 6, 7, 8 放飼場において集団飼育を開始し, 植物叢調査, サルの行動・ストレス評価, 採食調査, 水質環境調査など多項目の研究を進めた. また, グループケージにマカク用の新しいエンリッチメント器具を設置し, サルの飼育環境の改善を図った. RRS 計画の中ではナショナルバイオリソースプロジェクトの一部であるニホンザルバイオリソース(NBR)計画に, ニホンザルの繁殖と供給をおこなうことで協力している. 2009 年度には NBR のニホンザルは母群総数 307 頭となり, 新たに 40 頭の繁殖がみられた. NBR 事業へのサル供給を 17 頭おこなった. 絶滅危惧種に指定されているワタボウシタマリンの繁殖育成ならびに保全に資するために, 鹿児島県平川動物園との間でオス・メス 2 頭のブリーディングローンを行う手続きを開始した.

人事面では 2009 年 4 月 1 日に教授の明里宏文が, 2010 年 3 月 16 日に助教の早川敏之が就任した. 松林清明, 景山節の 2 教授が, 専門職員の熊崎清則が 2010 年 3 月 31 日をもって退職した. 非常勤研究として菅原亨を 4 月から採用した. 非常勤職員には以下の異動があった. 2009 年 4 月より教務補佐員に蔵本早希子を採用. サル飼育担当として福原加奈絵, 紀藤咲子, 西村未紀, 佐々木順子を技能補佐員に採用. 5 月実験補助担当として齊藤 暁, 岩崎優紀を技術補佐員に採用. 10 月サル飼育担当として浜田洋子, 石田恵津子を技能補佐員に採用. 2010 年 3 月技能補佐員の紀藤咲子を事務補佐員に配置